

所属・資格 国文学科・教授

申請者氏名 梶川 信行

研究課題		『万葉集』の研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>昨年度に引き続き、研究の柱は次の2つであった。</p> <p>1つは、『万葉集』に登場する渡来系氏族の人たちの動向と、彼らが奈良時代の歌文化の形成に果たした役割について。とりわけ、百済系の渡来氏族を中心に、きちんと検証すること。ここ10年ほど、そうした課題に取り組んで来たが、今年度も引き続きその問題について調査を続け、ノートを蓄積すること。</p> <p>もう1つは、国語の教科書で教材とされている万葉歌について。少子化の中、教科書の販売部数が減っていることが大きな原因であろうが、経費をかけずに編集した結果、古典領域の教材の検討がないがしろにされている。何の改訂もせず、古いデータをそのまま流用している教科書も見られ、『万葉集』に関しては古い常識が温存された状態で放置されている。知識注入型の学習から課題解説型の学習への転換が求められている中、現行の教科書にはどんな問題があり、今後それをどう改めるべきか、その点について論文などの形で提言すること。</p>
	研究の結果	<p>国語の教科書の『万葉集』に関しては、3本の論文を公表することができた。『日本文学』の論文は、歴史ある学会誌の検定教科書に関する特集号の巻頭に載せられたもので、戦時体制下の教育の残滓がまだまだ払拭できていないということを明らかにしたものである。また、日本大学国文学会の研究集会では、今後の国語教育をテーマにしたシンポジウムにおいて、古典教育の望ましい在り方に関する提言をする機会もあった。</p> <p>渡来系の人たちの動きに関しては、『万葉集』の宴席と琴」という短い論文1本だけだったが、継続的に調査を進めている。また、朝鮮半島を経由して伝わった琴の文化と万葉歌の音楽的な要素に関する本の書評を求められ、『山陰中央新報』（平成31年2月8日）に掲載された。</p> <p>その一方で、『万葉集』と同時代の史料であり、さまざまな形で『万葉集』を考える上で参考にしなければならない『古事記』の研究も進めている。今年度からは、国文学科助手で『古事記』研究者の鈴木雅裕氏とともに、共同研究を行なっているが、その成果も注釈の形で、日本大学国文学会の機関誌で連載を始めることができた。それによって『万葉集』の研究にも厚みが増すことが期待できるが、引き続き上巻の注釈作業を続け、来年度以降も連載が続けられるように、準備を進めている。</p>
	研究の考察・反省	<p>国語の教科書における『万葉集』の問題も、渡来系氏族の人たちの動きから『万葉集』を見据えようという研究も、そろそろ終わりが見えて来たように思われる。あとは、どのような形でそれらをまとめるかという問題だが、来年度以降、それらを体系化することを目標として、遺漏のないように、それぞれの問題についての落穂拾いもしたいと思う。</p> <p>その一方で、とりわけ『古事記』の注釈に関しては、その研究成果を学生たちにより還元しやすくするために、注釈方法の再検討をするなど、新たな形も考えたいとも思う。それには、『古事記』に関する研究ノートを着実に蓄積して行くためのフィールドワークも必要だと考えている。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>〈研究発表〉 日本大学国文学会第17回研究集会 〈「国語」の現在、「国語」のゆくえ〉 誰のための古典教育か——新学習指導要領の導入に向けて—— 於 文理学部本館地下一階センターホール 平成31年2月23日</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>〈研究成果物〉 『万葉集』の宴席と琴——越中国府で—— 『史聚』（史聚会）51号 92～96頁 平成30年4月 「萬葉精神」から「ますらをぶり」へ——検定教科書の『万葉集』—— 『日本文学』（日本文学協会）67巻5号 1～12頁 平成30年5月</p>	

	<p>万葉歌を読む 28・教科書の中の万葉歌——山上憶良の罷宴歌を読む—— 『語文』（日本大学国文学会）161 輯 83～95 頁 平成 30 年 6 月</p> <p>国語教科書の『万葉集』——佐佐木信綱をめぐる戦中・戦後—— 『語文』（日本大学国文学会）162 輯 1～15 頁 平成 30 年 12 月</p> <p>教室で読む古事記神話（一）——天地初発から神世七代まで——（鈴木雅裕と共著） 『語文』（日本大学国文学会）162 輯 46～57 頁 平成 30 年 12 月</p> <p>教室で読む古事記神話（二）——淤能碁呂嶋から不入子之例まで——（鈴木雅裕と共著） 『語文』（日本大学国文学会）163 輯 62～75 頁 平成 31 年 3 月</p>
--	---